

東京歯科医学院刊 広瀬武郎編 水野寛爾補

『簡明歯科薬物学』の書誌学*

森山徳長・西尾宏英・田辺 明**

要 旨

本書は明治37年東京歯科医学院講義録第2輯刊行後、併行して広瀬によって学生・臨床家向きハンドブック(255頁)として書かれ、その後水野により手を加えられて11年間に9版を重ねた。各論を主とし、薬化学的見地からの分類により記載され、実用に主眼を置いて編纂された。需要の多い当時の学生・臨床家向きのベストセラーであったが、東京歯科医学専門学校歯科学講義と歯科学叢書「歯科薬治学」に道を譲った。

This concise 255 page hand-book on dental pharmacology was written originally by Takeo Hirose in 1904 paralleled with Lecture-notes of Tokyo Dental College for students and clinicians. Later Kanji Mizuno co-authored this publication and 9 editions were issued consecutively for the period of 11 years until 1915.

The description were chiefly on the particulars of medicines classified from the standpoint of view of pharmaco-chemistry, and compiled for the practical use in clinical work. As such, this has been the bestseller texts among students and

clinicians, however, it gave way to the succeeding lecture-notes and T. Kawakami's "Pharmacotherapeutics" issued in 1916.

(キー・ワーズ Key words)

書誌学 Bibliography, 歯科薬物学 Dental Pharmacology, 広瀬武郎・水野寛爾 Takeo Hirose, Kanji Mizuno

I. は し が き

歯科の薬物書は、明治19年2月高山紀斎が臨床ハンドブックとしてまとめた「歯科薬物摘要」が始めてである。次には高山歯科医学院講義録中で「歯科薬物学」(各論のみ)が講義され(明治23~25年)、明治28年3月には、学院発行の教科書として、新たに体裁を整えて公刊された。この2篇については筆者らがすでに15回本学会学術大会で口演し、本誌に発表した¹⁻³⁾。別に明治25年3月、小島原泰民纂訳の「歯科薬物学」も公刊されている⁴⁾。

それより少し時代が下って東京歯科医学院の講義録第2輯で(明治35.4~37.12)深沢(早川)可美良が「歯科薬物学」を講じ⁵⁾、第3輯(明治40.6~43.6)でも早川可美良が講義し⁶⁾、いずれも合本され、それぞれ東京歯科医学院「歯科医学講義」第3巻(735頁)および「新纂歯科学講義」中巻のその2(464頁)となっている。

本論文で取上げる「簡明歯科薬物学」は明治37年4月広瀬武郎編で初版が発行された⁷⁾。それ以前の薬物学書が相当な頁数の大冊になる傾向にあ

* The Bibliography on Takeo Hirose's "Concise Dental Pharmacology"

** Norinaga MORIYAMA, Kooei NISHIO and Akira TANABE, Tokyo Dental College 東京歯科大学

本稿の要旨は、第16回日本歯科歴史学会総会・学術大会に於て(1988年10月22日、日本大学会館)西尾が口演した。



図 1 初版表紙

Fig. 1 Cover of the first edition

だったので、「簡明」と銘打って学生，開業医向の座右の書とすべく編纂されたものである。その意味では，高山紀斎の「齒科藥物摘要」と軌を一にする。

東京歯科大学史料室には，初版と思われる手書き表題を印刷した厚紙表紙（京都堀内蔵書印付）のみのものと，縦書本洋装幀の広瀬武郎編水野寛爾補増訂九版⁹⁾とが所蔵されている。したがって初版内容は不明なので，ここでは本書第9版の書誌学につき報告する。

II. 本書の書誌学

1) 装 幀

初版は厚ボール紙に帖付した扉を兼ねた表紙一枚のみしか実見していない（図1）。

9版は縦書き菊版（15×22 cm）帯赤褐色クロス装洋装幀本で，表紙（図2）に金文字の著者・書名が刻印してある。

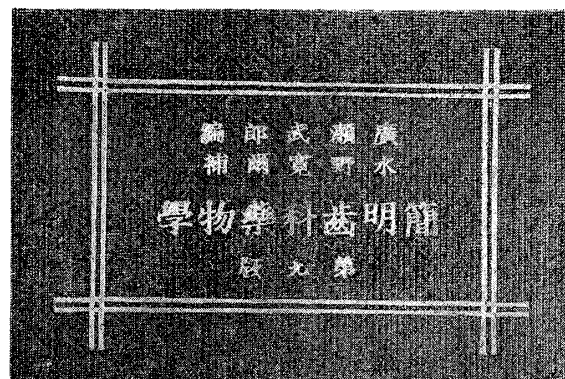


図 2 9版表紙の金文字

Fig. 2 Cover of the 9th edition—gilded title

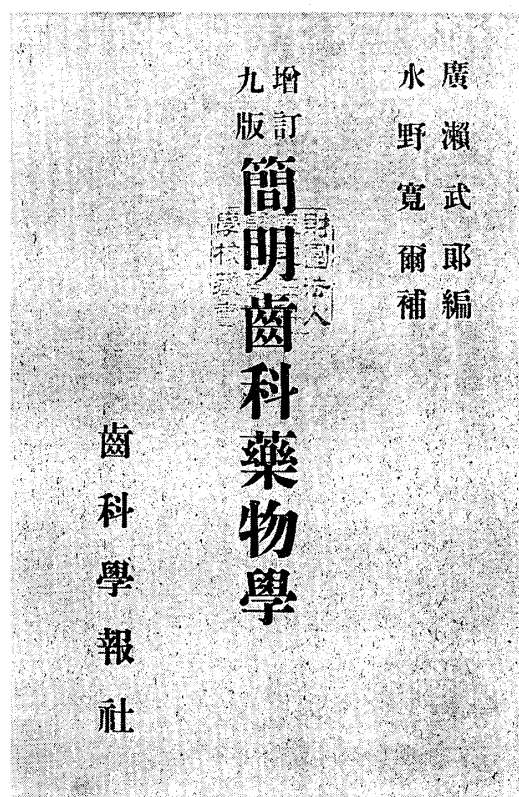


図 3 9版扉

Fig. 3 Title page of the 9th edition

2) 書誌的構成

本書は，扉—1（頁），目次—7，本文—243，付録—3，奥付—1，総頁 255 の手頃な珍袖版教科書である（図3）。組版は1頁縦書 15行 35字詰であるが細かい説明の箇処は20行40字詰となっている。頁上部の線を引いた上段に空欄があり，小見出語や薬品名が記入されている。項目及文中の

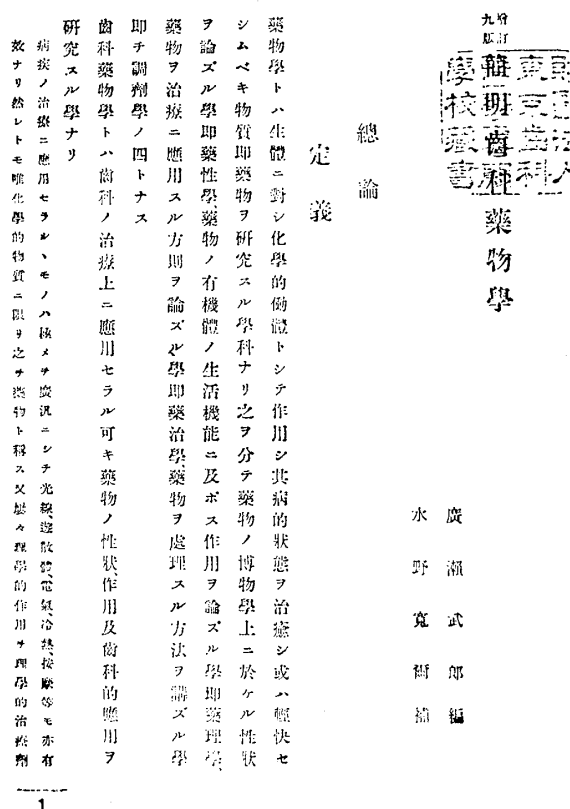


図 4 本文第一頁
Fig. 4 The first page of the text

術語には英，独，羅典語と化学式が，添加されている。

3) 目次

本書には緒言，凡例等が無く直ちに下記の通り目次となっている。

總論

定 義	1
薬物の作用	2
薬物の応用	7

各論

第一類 有機化合物	14
第一部 脂肪化合物ニ属スル神経筋肉毒	15
クロロホルム，アンモニア等 5 種	
第二部 塩基類ニ属スル神経筋肉毒	48
ストリキニーネ，モルヒネ，コカイン，アトロピン等 20 種	
第三部 芳香化合物ニ属スル神経原形質毒	75
アンチピリン，石炭酸，サルチル酸属 3 種	

本邦神経モ麻痺セラル可シ又視神経及其中樞ノ興奮性ト増加ス諸般ストリキニーネ著本
證同越幾斯同丁熱「アルツイン」等之ニ属ス

第三 「モルヒネ」 Gruppe des Morphins

大脳ヲ麻痺シ感覺絲ニ痛覺ヲ麻痺スルヲ特長トス河片ニ含有セラル、種々ノ類體基セル
ヒネ「ババエリン」「コデイン」「ナルコチン」等之ニ属ス

「モルヒネ」 Morphium

性 状

鹽酸「モルヒネ」ハ絹絲様ノ光澤ヲ有スル白色錠狀ノ結晶ニシテ多クハ束錠狀ニ集
團シ或ハ白色骰子形ノ塊片ヲナシ二十五分ノ水並五十分ノ酒精ニ溶解シ「エーテ
ル」ニ溶解セズ極量一回〇・〇三一日〇・一

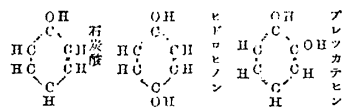
用 作

「モルヒネ」鹽ヲ創面又ハ粘膜ニ貼スレバ灼痛ヲ起シ其部ノ知覺ヲ鈍麻ス胃直腸ノ
粘膜及皮下蜂窠織ヨリ容易ニ吸收セラルレドモ健全ノ皮膚ヨリハ吸收セラレズ
動物試験ニ於テ最初大脳ノ機能ヲ消失シ次ニ中脳小脳終ニ延髄ノ機能ハ漸次消
失スル恰モ上記ノ順序ヲ以テ之ヲ截去シタルガ如シ唯脊髓ハ反射興奮ヲ高メ強

図 5 モルヒネの項

Fig. 5 The description of morphine

第四部 毒素体ニ属スル神経筋肉毒	102
ピクロトキシン属他 6 種	
第五部 揮発油類	106
樟腦属，芳香性，汚臭・苛味揮発油 4 種	
第六部 局处刺戟ヲ主トスル有機化合物	116
苦味質，泌尿器消毒剤，皮膚刺戟剤，植物 性下剤，収斂剤	
第七部 駆虫剤	127
第八部 作用薄弱ナル有機化合物	128
第二類 無機化合物	132
第一部 水及中性塩類	133
水属，食塩属，芒硝属	
第二部 腐蝕剤	135
アルカリ属，硫化アルカリ属，酸類，造塩 素属，酸化剤	
第三部 重金属塩	167



可トス
本圖ハ「フェノール」類「フェノール」エステル「及芳香炭化水素ナリ石炭酸ハ本圖ヲ代表スルモノナリ而シテ「フェノール」類「二酸化ベンツォール」同一ナル局所作用ナ有ス又
中「アトール」等ハ類似ノ作用ヲ呈ス
「アトール」等ハ類似ノ作用ヲ呈ス
防腐作用ノ強度ハ石炭酸「クレゾール」「チモール」「ゲアヤコール」「クレオゾール」ハ「クレゾール」「ヒドロヒノン」「ブレンツカチン」無性炭酸之ニ次グモノナリ

石炭酸
Acidum carbolicum

性
狀
無色長キ尖鋭ノ結晶或ハ白色結晶性塊ニシテ特異ノ臭氣ヲ有シ四十乃至四十二度ニ於テ溶融ス五分ノ水ニ溶解シテ澄明中性ノ液トナル酒精「エーテル」「クロロホルム」「グリセリン」「硫化炭素」又「ナトリウム」油液ニハ隨意ノ比例ニ於テ澄明ニ溶解ス光ヲ防ギテ貯フベシ(極量一回〇・一〇〇〇〇)

作用
腐蝕性ヲ有ス「リノイド」質ヲ溶解シ蛋白質及膠質ヲ凝固スルガ爲ナリ且組織ニ竄透シテ細胞ヲ毒シ知覺麻痺ヲ起ス作用アリ

図 6 石炭酸の項

Fig. 6 The description of carbolic acid

砒素属, アンチモン属, 水銀属他10種	
第三類 消化醱酵素及滋養品	195
消化醱酵素, 脂肪, 含水炭素, 蛋白質, 複合滋養素	
第四類 器械的作用ヲ有スル薬剤	197
第五類 血清細菌及細菌産物	202
第六類 臓器成分	209
調剤術	212
付録 (91種の薬物の極量表)	1~3

4) 本文内容の概略

本書総論の記載は簡明であるが、薬物各論に重きを置き、薬化学的見地からの分類、記載が中心である。また栄養学、血清細菌製剤等に論及した点などに、この時代としては特長がある。

又細菌ノ接種ニヨリ同病ノ免疫ヲ得ベシベスト接種素コレヲ接種素チフス接種素ツベルクリン等アリ

デフテリア血清
Sera anti-diphtheria

性
狀
液體デフテリア血清ハ類黄色澄明或ハ微ニ濁濁セル液ニシテデフテリア毒素ヲ以テ免疫シタル馬ノ血清ナリ一壺中ノ免疫單位量ニ從ヒ左ノ三種ノ區別ス第一號六百免疫單位第二號千免疫單位第三號千五百免疫單位乾燥デフテリア血清ハ黄色透映ノ小葉片或ハ帶黄白色ノ粉末ナリ一グラム中少クモ五千免疫單位ヲ有ス用ニ臨ミ二百倍石炭酸水又ハ滅菌水ニ溶解ス

作用
本品ヲ注射スル時ハデフテリア菌ノ産出セル毒素ヲ中和シ患者ヲシテ中毒ヲ免カレシメ病狀ハ頓ニ輕快シ局所病變退行シ偽膜剝離ス

効
用
デフテリアニ對シ千乃至三千免疫單位ヲ胸側上腿或ハ上膊ニ注射ス豫防ノ目的ニハ百乃至二百免疫單位ニシテ足ル

503

図 7 デフテリア抗血清の項

Fig. 7 The description of antisera for diphtheria

また各論の終りに項を新たに相当頁を割いて調剤術総論・各論を挙げ、実際上の便宜を計っている。また付録には成人の極量一回量及一日量を、91種の薬名について3頁の一覧表を掲げている。

総論・各論の記述からいくつかを拾ってみると、薬物学の定義について著者らは本文第1頁に『薬物学とは生体に対し化学的働体として作用し、その病的状態を治癒しあるいは輕快せしむべき物質すなわち薬物を研究する学科なり』として、その分科として薬性学、薬理学、薬治学、調剤学があると述べる(図4)。

各論有機化合物では、脂肪化合物に属する神経筋肉毒として第一に「クロロフォルム」属を取上げる。第二の塩基類に属する神経筋肉毒として「クラリン」「ストリキニーネ」「モルヒネ」や「コカイン」を(図5)、第三の芳香属化合物では

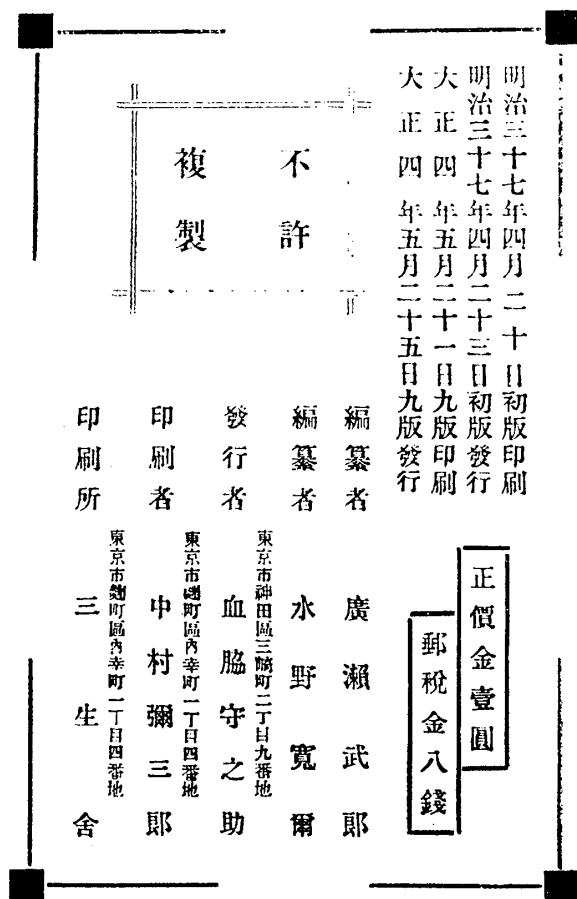


図 8 奥 付
Fig. 8 The imprint

石炭酸（図 6）という様に取上げ詳述している。

血清細菌及細菌産物ではデフテリア抗血清を取上げている（図 7）。

5) 奥 付

図 8 に示す。明治 37 年 4 月 23 日初版発行。大正 4 年 5 月 25 日 9 版発行。正価金壹円。

これによると、初版時の価格は不明である。途中の版の発行年月日もわからないが、殆んど毎年のように改版したことになる。初版より 11 年間に 9 版を重ねていることは、需要の多かったことを物語っている。

III. ま と め

広瀬は血脇守之助の義兄となったが、歯科医学叢談の巻頭文「歯科医の法的責任を論ず」を書いた能弁家で、東京歯科医学院第一回の留学生であ

り、帰朝後も開業医として令名を馳せた人物である。水野は血脇歯科医院医員と学院専任教員を兼ね、奥村・佐藤・小川・早川（深沢）・花沢等と学院——専門学校の礎石造りに貢献した。

本書の第何版から水野が関与したかは不明である。広瀬は名望家で開業医として成功しており、少なくとも途中からは実際の編集・改訂の実務は水野の手に成ったものと思われる。広告によると少なくとも明治 42 年第 4 版以降は共著となっている。

255 頁の本書は「歯科医学講義」合本（735 頁）と殆ど同時に発刊され、「新纂歯科学講義」合本（464 頁）と併行し、珍袖本として版を重ねた。

早川可美良・川上為次郎「東京歯科医学専門学校歯科学講義」（大元～6 年）⁹⁾ が合本となり、更に歯科学叢書川上「歯科薬治学」（大正 6 年）¹⁰⁾ が出て、それに道を譲って、その使命を終えた。

学生・臨床家向きの珍袖ハンドブックとして、明治 37 年初版以来大正 4 年 9 版まで重版したベストセラーであった。

文 献

- 1) 高山紀斎：歯科薬物摘要，東京，英蘭堂，明治 19 年 2 月（1886）
- 2) 高山歯科医学院：高山歯科医学院講義録「歯科薬物学」明治 23-25 年
- 3) 高山紀斎：歯科薬物学全 東京，高山歯科医学院，明治 28 年 3 月（1895）
- 4) 小島原泰民：歯科薬物学 東京，英蘭堂，明治 25 年 3 月（1892）
- 5) 早川可美良：歯科薬物学，東京歯科医学院「歯科医学講義」明治 35-37 年
- 6) 全：歯科薬物学 全「新纂歯科学講義」明治 40-43 年
- 7) 広瀬武郎：簡明歯科薬物学 初版，東京，歯科学報社，明治 37 年 4 月
- 8) 広瀬武郎編・水野寛爾補：簡明歯科薬物学第 9 版 全上 大正 4 年 5 月
- 9) 早川可美良・川上為次郎：歯科薬物学，東京歯科医学専門学校「歯科学講義」大正元～6 年
- 10) 川上為次郎：歯科薬治学 東京，歯科学報社，大正 6 年 12 月